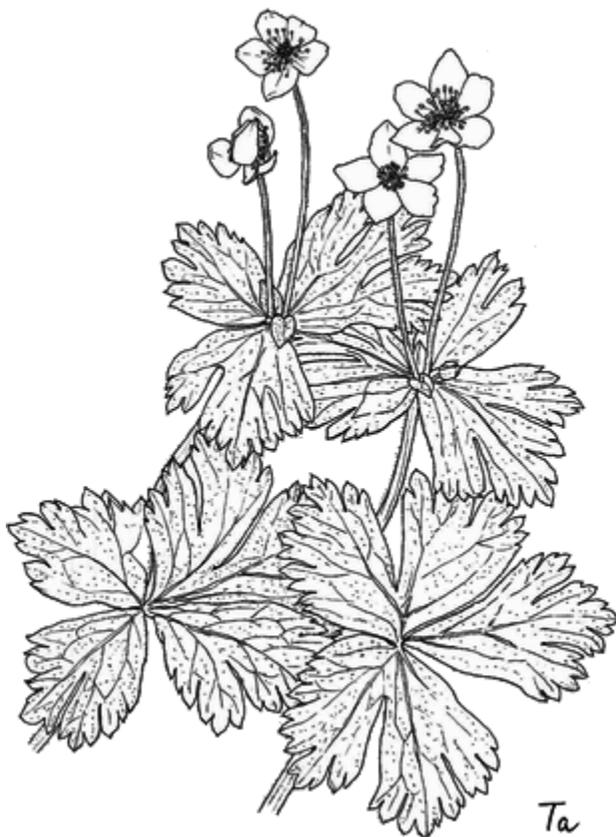


稲城野草散策の会

野草スケッチ ニリンソウ（キンポウゲ科）



1997/04/17 稲城市矢野口 絵と文 Ta

1985年頃まで約25年間、信州に住んでいた。
「25年も信州にいたのなら、いろんな植物に詳しいでしょう」などと訊かれたりするが、残念ながら植物はほとんど覚えないうちに東京へ転勤した。
したがって東京へきた頃は、初心者にも毛が生えた程度の状況だった。

会報第75号 2011年3月27日発行 発行責任者 尼子 房夫

植物について、観察会やパソコン通信などを通じて教わるようになったのは、さらに数年後のことだ。

転勤1年後、稲城市へ転居し、多摩丘陵とも徐々に親しんでいった。

そんなときに信州で見たことがある植物と出会えれば、これはもう、大感激である。

京王相模原線よみうりランド駅近くに穴沢天神という社がある。

延喜式内神社だそうで、格式が高いらしい。

神社の裏手はヒノキ林～雑木林になっていて、斜面を登った尾根が神奈川県との都県境だ。

参道の石段は100段ほどあるが、この登り口近くには湧き水があって、湿生植物がちょっとした群落を作っている。

ここの裏側へ偶然入り込んだときに、ニリンソウと出会った。

信州でおなじみになっていた野草である。

よくまあ、こんな場所に咲いていたものだ。

片側は神社へ続く崖、反対側は人家に隣接しているような場所である。

最初は植えたものかと思ったが、近所の庭先に植えた形跡は見当たらない。

生えている様子からしても、自生で間違いなさそうである。

荒らされたり盗掘されたりせずに咲いているのが奇跡のように思えた。

現在、この場所は工事によって入れなくなっており、ニリンソウの消息も確認できていない。」

その後、多摩丘陵にはニリンソウがところどころにあることを知った。

穴沢天神社よりも立派な群落も多い。

奥多摩ではあたり一面のニリンソウに出会ったこともある。

しかし、どんなにすばらしい群落があっても、穴沢天神社での感激には遠く及ばない。（2000年3月記）

* * * * *

〔観察記録〕 2月27日 城山～中央公園

つい数年前の南多摩駅は、忘れ去られたような佇まいの駅でしたが、この日改札を出て振り返ると、どーんと高架線が完成しつつあって、逆になんだか味気ない気持ちにさせられます。

駅に集合された方は44人、冬芽観察がメインの会にしては、かなりの参加人数といえるでしょう。広沢さん、林さん著の『冬芽ハンドブック』刊行の効果でしょうか。

天気予報によると、気温は15℃を超えると予想されましたが、前々日は20℃超、前日は8℃と、寒暖のはげしい季節で、参加した皆さんも、服装にはかなり悩まれたんだと思います。

駅からは、大丸公園、城山公園と進みます。この城山公園というのは私の勉強不足で、どんな城があったのか、よく知りません。公園に入ったところに八の丸跡があって、出る頃に三の丸跡という表示がありました。八の丸まであったということは、相当大きな城だったんでしょうが、さて、いつ頃の誰の城だったんでしょう？ ご存じの方、ご教示下さい。

城山公園に限らないのですが、多摩丘陵の地形はかなり急峻で、アップダウンも厳しい場所もあり、上昇する気温と相まって、ジャケットやセーターを脱ぐ参加者が増えてきます。なかには、半袖シャツになった方もいました。更には、花粉攻撃です。あちこちで、くしゃみをする人が絶えません（私もその1人でした）。

城山公園の外れで昼食タイム、午後は稲城中央公園に向かいます。

稲城中央公園から、三沢川沿いに稲城駅に向かいます。三沢川には何種類かのヤナギの仲間が生えていて、広沢さんがアーダコーだと解説していると、目の前をさっと鮮やかなブルーが横切ります。カワセミです。おお！ カワセミだと騒ぎながら川を覗いていると、更にジョウビタキも見つかりました。

日当たりのよい場所では春の雑草も開花していたし、地味な冬芽観察会の割には、変化に富んだ観察会になりました。

↑ 当日のコースです

▼観察記録（番号順）

(1)ネムノキ、(2)コブシ、(3)ソメイヨシノ、(4)ナナカマド、(5)クヌギ、(6)ケヤキ、(7)アカメガシワ、(8)ヤマグワ、(9)ムクノキ、(10)マユミ、(11)ミツバアケビ、(12)シキミ、(13)イボタノキ、(14)エゴノキ、(15)リョウブ、(16)マルバアオダモ、(17)コバノガマズミ、(18)ヤブムラサキ、(19)アカシデ、(20)コナラ、(21)ヤマブキ、(22)オオイヌノフグリ(花)、(23)ノゲシ(花)、(24)オニタビ



ラコ、(25)カラスノエンドウ、(26)ヨモギ、(27)スズメノカタビラ、(28)ヤエムグラ、(29)ニオイカントウ(花)、(30)ヤマハンノキ、(31)ヤマトアオダモ、(32)タマノカンアオイ、(33)フモトシダ、(34)トラノオシダ、(35)ベニシダ、(36)ウウミスザクラ、(37)ヤブコウジ、(38)クマシデ、(39)ムベ、(40)オオイタビ、(41)キブシ、(42)イヌシデ、(43)ヤマザクラ、(44)カヤ、(45)シデコブシ、(46)ハクモクレン、(47)ムクゲ、(48)マメザクラSP、(49)センダン、(50)ノビル、(51)ハルジオン、(52)ムラサキケマン、(53)ヒメオドリコソウ(花)、(54)ヤマコウバシ、(55)ヤマツツジ、(56)アオハダ、(57)ウリカエデ、(58)ゴンズイ、(59)マルバウツギ、(60)コウヤボウキ、(61)ツルグミ、(62)ネジキ、(63)イヌザクラ、(64)カマツカ、(65)サワフタギ、(66)ウグイスカグラ、(67)ヒメカンスゲ、(68)ムラサキシキブ、(69)ナツツタ、(70)ハリギリ、(71)メタセコイア、(72)ヤマボウシ、(73)クロモジ、(74)カツラ、(75)トチノキ、(76)ヒメオドリコソウ、(77)モミジバフウ、(78)ダイオウグミ、(79)エノキ、(80)カンヒザクラ、(81)アンズ、(82)ライラック(ムラサキハシドイ)、(83)ヤマモモ、(84)イロハモミジ、(85)シモクレン、(86)ハナモモ、(87)コウゾリナ、(88)ミズキ、(89)マンサク(花)、(90)アメリカフウロ、(91)オノエヤナギ、(92)コオニタビラコ、(93)オニグルミ、(94)イヌコリヤナギ、(95)センニンソウ、(96)クコ、(97)ウンナンオウバイ(花)、(98)カラタチ、(99)ヤドリギ、(100)キミノヤドリギ

〔紹介〕 冬芽ハンドブック

稲城野草散策の会の世話役・広沢さんが初のハンドブックを刊行されました。
 発行：文一総合出版、解説と絵：広沢毅、写真：林将之、定価：1260円
 林将之さんは、「葉で見わける樹木」、「樹皮ハンドブック」、「紅葉ハンドブック」でおなじみの方です。

＜本書の特長＞

- 鮮明な冬芽のスキャン画像を多用した、ビジュアルな紙面。
- 冬芽画像を一覧掲載した、初心者にも調べやすい検索表。
- 冬芽や葉痕、枝、幹の特徴を、比喻を交えて紹介した解説。

書店で右のような本を見かけたら是非ご購入下さい。



〔行事予定〕 2011/3/27 (日) 裏高尾・日影沢

項目	説明	地図
集合	am10時、日影沢の橋付近（今回は高尾駅ではないのでご注意ください） ※会旗目標	
交通	JR中央線快速、特別快速高尾行きまたは京王線高尾山口行きをご利用下さい JR中央線高尾駅北口からバスで日影バス停まで来て日影沢の橋に集合して下さい バスは9時12分、32分、（52分）があります（220円）	
行く先 (解散場所)	裏高尾・日影沢の溪流沿いの道、林道を歩きます 日影バス停 pm3時頃解散予定	
見所 その他	見られそうな花：ハナネコノメ、コチャルメルソウ、アズマイチゲ、キクザキイチゲ、ニリンソウ、トウゴクサバノオ、アブラチャンなど	〔コース〕 日影沢の橋→ハナネコノメ→ウッディハウス（昼食）→いろはの道（ゆるい登り）→林道→急な下り道→日影バス停（解散・・・15時頃）（上の地図を参照ください） コースは天候その他により変更する場合があります

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

〔行事予定〕 2011/4/16 (土) 三沢川下り

項目	説明
集合	am10時、京王相模原線・若葉台駅 改札口付近 ※会旗目標 若葉台駅の改札口は一個所だけです
交通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で5駅目 多摩モノレールの場合、多摩センター駅で京王線に乗換えて2駅目 小田急線の場合は、永山駅または多摩センター駅で京王線に乗換え 若葉台駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	若葉台駅から三沢川に沿って稲城駅まで歩きます。 稲城駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	三沢川流域には雑木林や谷戸田など、豊かな自然が残っています スミレ、ジロボウエンゴサク、イチリンソウ、タマノカンアオイ、 クチナシグサ、ノジスミレ、ゲンゲ、ふれあいの森でヤマルリソウ などの花が見られると思います
地図	
コース	若葉台駅→稲城高校前→稲城ふれあいの森周辺→天神台→高勝寺→ 清水谷戸→駒沢学園→百村→京王稲城駅（解散） 行程5～6km、アップダウンはほとんどありません コースは天候その他により変更する場合があります

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円